

日本語能力差のある子ども達への指導方法

日本語能力に差がある子ども達への指導方法は、大きく分けて2種類の方法があります。一つは日本語クラスを開設すること、もう一つは授業の中でそれぞれの先生方のやり方で指導方法を工夫して補うことです。

(1) 日本語クラスの開設

私どもシャーロット日本語補習学校では、4歳以上7歳未満の子ども達を対象に、日本語教室というクラスを開設しています。当然のことながら、授業カリキュラムは言葉指導が中心になってきます。このクラスへの入級は、保護者からの希望はもちろん、教員からみて日本語教室に入った方がこの子のためになると判断したときに保護者と相談をして決めます。

しかし現状では、4歳児のみ入級しており、他学年の子どもも含めた日本語指導という本来の意味では機能していません。そのわけは、この地区は企業赴任の家庭が多く、日本語自体がたいへんだという子どもが少ないこと、一学年10名前後なので、普通の授業の中での指導で補えてしまうことなどからです。

(2) 授業での指導の工夫

本校では一学年の子どもの人数は10名前後です。そのため、日本語能力が少し欠けている程度の子どものなら、授業の中で個別指導する時間をつくれれば、そこで十分指導できてしまっています。たとえば、一斉学習のあとの一人学習(個々に問題を解く時間、漢字を書く時間、調べものをする時間、作業をする時間など)に教師がその子どもの所に行き、簡単な言葉で補ってやるのが大切です。特別なメニューを与えなくても、毎時間のこの繰り返しだけでもかなりの効果を生みます。あるいは、グループ活動を取り入れて、子ども達同士での教え合い学習を行ってみるのも一つの手です。子ども達同士なら普通の会話ができるのですから、その延長で、簡単な言葉でお互い説明し合えると思います。子ども同士というのは意外に効果があるものです。

もしこのような方法でも効果が得られないとしたら、やはり学校として日本語クラスの開設や、補助教員をつけて二人体制で指導していく方法を考えていくなど、学校としての取り組みが必要になってくると思います。